

## はじめに

大阪府では、子どもたちが生涯にわたって主体的に学習を行えるよう、学び方を身に付け、自立した学習者となることをめざしています。また、子どもたちが多様な価値観を認め合い、主体的に学び合う環境をつくるためには、授業者は単に知識や技能を教えるだけでなく、学びの伴走者として子どもたち一人ひとりの学びを引き出すような指導や支援が求められています。

具体的には、

- 自分自身の興味や関心、自分のペースや学習進度、学習到達度に応じて、
- 一人で学んだり、他者と協働して学んだりしながら、
- 学習内容や学習方法を、自己調整・自己決定して、学習課題に取り組み、学びを深めていく、そんな子どもたちを育てていくことをめざしています。



## これらのめざす子どもの姿を実現するためには、体系的な情報活用能力の育成が必要です！

### 情報活用能力とは

言語能力や問題発見・解決能力と並んで**学習の基盤となる資質・能力**の一つであるとされています。

学習指導要領(平成29年告示)解説(総則編)では、「将来の予測が難しい社会において、情報を主体的に捉えながら、何が重要かを主体的に考え、見いだした情報を活用しながら他者と協働し、新たな価値の創造に挑んでいくためには、情報活用能力の育成が重要」と述べられています。

情報活用能力



言語能力



問題発見・解決能力



### 情報活用能力を5つに整理・分類しました！

これからの学校教育においては、子どもたちが何ができるようになるか、そのために何を学び、どのように学ぶかが重要です。しかし、情報活用能力については、具体的に、各教科や学年でどのような力を育んだらよいのか、学習指導要領には明記されていません。そこで、大阪府では、子どもたちが学び方を身に付けるとともに、1人1台端末や学校図書館等、メディアの特性を活かし、アナログとデジタルを融合させ、多様な媒体や手段から情報を収集したり、適切に活用したりする力が重要と考え、情報活用能力を以下の大きく5つに分類しました。

- 1 子どもたちが学び方を習得し、自立した学習者となるために必要な**「学びスキル」**
- 2 学校図書館の3つの機能\*を活用し、より正確でまとまった情報が掲載されているという本の良さを生かして情報を得る等、各メディアも含む情報の特性を理解し、学校図書館で自ら必要な情報を探し出したりするなかで、課題解決を図るために必要な**「学校図書館活用スキル」**
- 3 子どもたちが、文房具の1つとして、1人1台端末とクラウドを日常的に活用しながら学びを深めるために必要な**「ICTの基本操作スキル」**
- 4 生成AI等の普及も見据え、社会に広がっている情報・ニュース等が事実に基づいているかどうか正誤を判断して、正しい情報を調べることや、情報を安全に活用するために必要な**「情報モラル・情報セキュリティ」**
- 5 コンピュータが動く仕組みや考え方を理解し、順序を考えて説明するなど、論理的思考力を身に付けるために必要な**「プログラミング」**

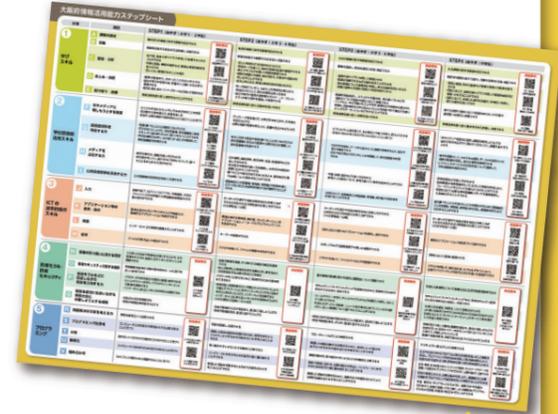
#### 学校図書館の機能や役割を詳しく知ろう！

\*学校図書館は書籍や資料が存在する単なる空間ではありません。児童生徒の読書活動や児童生徒への読書指導の場である「**読書センター**」としての機能、児童生徒の学習活動を支援したり、授業の内容を豊かにしてその理解を深めたりする「**学習センター**」としての機能、児童生徒や教職員の情報ニーズに対応したり、児童生徒の情報の収集・選択・活用能力を育成したりする「**情報センター**」としての機能を有しています。

(参考)  
文部科学省HP「学校図書館ガイドライン(H28.11月)」  
[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/s\\_hotou/dokusho/link/1380599.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/s_hotou/dokusho/link/1380599.htm)



## そして、これら5つに分類した情報活用能力を義務教育9年間で発達段階に応じて体系的に育むことができるよう、4つのステップにわけたものが、「大阪府情報活用能力ステップシート」です。



### 大阪府情報活用能力ステップシートの特徴

#### ポイント1

各ステップは、めやすとなる学年を示していますが、「何ができるようになるか」に着目して子どもたち一人ひとりの状況に応じて段階的に指導、学習を進められるようにつけています。

#### ポイント2

情報活用能力体系表をまだ作成していない市町村や学校が参考としていただくことはもちろん、すでに作成している場合においても、今後、更新や改訂する際の資料として活用できるように汎用性のあるものになっています。

#### ポイント3

体系表で示したつけない力に関連した授業実践事例の一部を閲覧できる二次元コードを掲載することで、具体的な授業実践にアクセスすることができるようにし、教員にとって具体的な授業構想につながるものになっています。



#### 【例】学びスキル ④「整理・分析」



##### STEP1

・絵や図、簡単な表やグラフを用いて情報をまとめることができる  
・共通と相違、事柄の順序など、情報と情報の関係を捉えられる  
・正しくない情報があることを知る

##### STEP2

・正しい情報かどうか確かめようとする  
・情報カードを使って、集めた情報の記録や整理ができる  
・表やグラフなどを用いて情報を整理できる  
・複数の情報から傾向、変化を捉え、共通点や相違点を見いだすことができる  
・全体と中心など、情報と情報の関係を捉えられる

##### STEP3

・複数の表やグラフを用いて整理できる  
・情報が信頼できるものか確かめることができる  
・得た情報について論理的に考察し、新たな意味を見いだせる  
・原因と結果など情報と情報との関係を捉えられる

##### STEP4

・意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係を捉えられる  
・目的に応じて、複数の表やグラフを用いて情報を統計的に整理・分析することができる  
・目的に応じて、収集した資料を多面的・多角的に考察し、新たな意味を見いだせる

### 情報活用能力の育成をめざした授業風景(一例)

子どもたちがそれぞれ自分にあつた方法で調べるためのツール、まとめる媒体、発信の仕方を取捨選択し、個人やグループで解決しようとしている様子です。

- 1 探究や調べたいことのテーマに関する本を教室に並べ、いつでも本を活用できるように
- 2 個人で学習に取り組む
- 3 グループにして話し合いながら取り組む
- 4 本から情報を収集
- 5 1人1台端末を活用し、インターネットから情報を収集
- 6 調べた情報を1人1台端末を活用してプレゼンテーションソフトにまとめる
- 7 調べた情報を紙媒体にまとめる



(大阪府内の公立小学校にて撮影)

※授業者は、子どもたちの様子を観察するとともに、端末でリアルタイムに子どもたちの学習の進捗をクラウドで確認しています。そして、支援が必要な子どもには重点的に個別の支援を行っています。また、学級全体が授業の目標を達成できるよう、中間評価を示したり、アドバイスを行ったりしています。